



# 新京成のんびりおでかけ途中下車



VOL. 1 2006.03

発行 新京成電鉄株式会社 鉄道本部 運輸部 営業課  
http://www.shinkeisei.co.jp/

松戸

上本郷

松戸新田

みのり台

八柱

常盤平

五香

元山

くぬぎ山

北初富

新鎌ヶ谷

初富

鎌ヶ谷大仏

二和向台

三咲

滝不動

高根公園

高根木戸

北習志野

習志野

薬園台

前原

新津田沼

京成津田沼



▲毎年にぎわいを見せるさくらまつり

八柱駅から常盤平・五香駅までの約3km以内の道路両側にソメイヨシノが約1000本植樹されている「常盤平さくら通り」は昭和35年、当時の日本住宅公団が松戸市金ヶ作地区に大規模住宅を造成した際、それを記念して樹齢15年の桜の木を植樹したことが、はじまりとされております。  
今年（4月1日（土）・2日（日））に常盤平・八柱の双方で恒例のさくらまつりが催され、昼は歩行者天国、夜は夜桜見物と、大変賑わっています。また、この通りは昭和62年に日本の道100選にも選ばれております。

『日本の道百選』に選ばれた日本有数の桜並木

常盤平の通り

昭和34年12月、松戸市は、金ヶ作地区に建設中の大規模団地の名称を募集しました。応募総数228通のうち、その中から採用されたのが「常盤平」でした。  
「常盤」という言葉は常に変わらぬ岩のような状態や、一年中緑の葉を付けた樹木、常緑樹を言います。そこで金ヶ作地区はもともと平坦地であったことから「常盤」を「常盤」と変え、「常盤平」と名付けられたと言われております。こうして新たな団地名は「常盤平団地」と決まり、かつては「金ヶ作駅」と名乗っていた駅名も、昭和35年2月1日に「常盤平駅」に名称変更されました。実はその「常盤平」の名付け親が、当時新京成電鉄に勤務していた元社員なのでした。

「常盤平」の地名は、新京成社員が名付け親

常盤平の誕生



▲日本の道100選にも選ばれた、さくら並木

## 八柱駅～常盤平駅～五香駅

約3km



【子と清水の由来】 常盤平駅から、けやき通りを約800m下ると、県道281号線手前に三角地に木に囲まれた湧水と公園があります。そこが子と清水です。昔酒好きな老人が湧き出る泉を手で掬って「ああおいしい酒だ」と言って飲んでいました。それを見ていた息子が後から飲んでみると、ただの清水でした。この話を聞いた人々は「親はうま酒、子は清水」と言い、子と清水と言われたと言い伝えられています。現在ではその湧水は水量が少なくなり、人工湧水となっております。

【生鮮街道の由来】 子と清水前の県道281号線は、江戸時代、銚子で水揚げされた生魚を、舟に載せて利根川をさかのぼり、布佐でその生魚を馬に乗せ替え、江戸まで運搬する際の重要な街道でした。特に子と清水は、運搬中に馬も人間も、この湧水を飲んで体を休めたと言われられております。この街道は、銚子の魚を江戸へ運ぶ時の最短ルートであったことから別名「生（なま）街道」とも呼ばれたそうです。こちらは、小林一茶ゆかりの湧水でもあり、一茶はここで「母馬が番して飲まず清水かな」と歌ったともいわれ、その記念碑もあります。